

# 教育委員会臨時会議事日程

令和6年9月19日(木) 午前10時00分

- 1 会議録の承認
- 2 一般報告  
図書館ビジョンの具体化に向けた市立図書館の現状と課題について(調査報告)
- 3 審議案件  
教委第26号議案 第34期横浜市社会教育委員の委嘱について  
教委第27号議案 教職員の人事について
- 4 その他

令和6年9月19日

## 教育委員会臨時会 一般報告

### 1 市会関係

- 9/10 本会議（第1日）議案上程・質疑・付託
- 9/13 本会議（第2日）一般質問
- 9/18 こども青少年・教育委員会（教育委員会関係）

### 2 市教委関係

#### （1）主な会議等

#### （2）報告事項

- 図書館ビジョンの具体化に向けた市立図書館の現状と課題について（調査報告）

### 3 その他

## 図書館ビジョンの具体化に向けた市立図書館の現状と課題について（調査報告）

令和6年3月に策定した「横浜市図書館ビジョン」を踏まえ、市立図書館の図書サービスとアクセス性の向上に向けた再整備の方向性を検討するため、現況調査等を実施しています。これまでの調査の結果から、現在の市立図書館が抱える課題等について整理しましたので、報告します。

### 1 調査概要

#### (1) 概要調査

- ・既存資料を用いて、全市立図書館の敷地条件や狭隘化の状況等を客観的に整理
- ・周辺自治体や他政令指定都市と状況等を比較

#### (2) 現況調査

築年数の古い5館（港北、山内、戸塚、鶴見、金沢）及び中央図書館を対象に、現在状況（フロア構成、敷地の条件、周辺のまちづくり等の動向）を整理するとともに、施設利用状況等をアンケートや聞き取りにより把握

### 2 現状と課題

#### (1) 蔵書

→蔵書の拡充は図書サービス向上に必要な要素の一つだが、現状施設の収容量では困難

- ・市立図書館の保有する蔵書は、市民一人当たりで比較すると他の政令指定都市より少ない。
- ・市立図書館の蔵書の保存機能を担う中央図書館の書庫の収容量はおよそ9割に達しており、大幅な蔵書の拡充は困難。

#### ○中央図書館書庫の収蔵数

最大収蔵容量：135万冊  
現在収蔵量：120万冊（R4年度末）

#### (2) 施設環境

→老朽化・狭隘化、デジタル化の遅れがあり、インクルーシブの観点から、誰にとっても使いやすい快適な環境を提供できていない

- ・椅子・机、トイレ等の使いづらさ、管理運営のデジタル化の遅れ、利用者動線の不便さなど、施設・設備の古さに起因する課題あり。
- ・市立図書館の面積は、近年整備された他自治体の図書館と比較すると狭く、特に閲覧席の数が大きく不足。

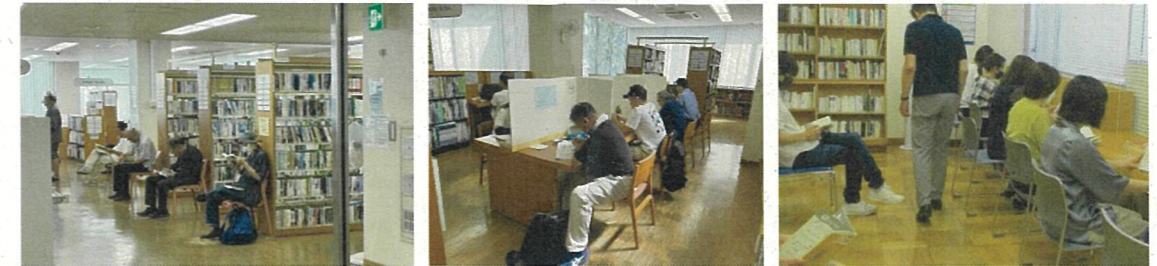
#### ○図書館施設面積等

本市現状	築年数：60年超1館、40年超5館（平均36.9年）
	施設面積：1,981㎡（地域館平均） 蔵書あたり延床面積 14.5㎡/千冊（地域館平均）、12.5㎡/千冊（中央図書館） 閲覧席数：51席（地域館平均）
近年整備事例※	施設面積：平均3,840㎡、蔵書あたり延床面積 平均15.2㎡/千冊 閲覧席数：平均285席

※平成25年以降に整備された人口20万人以上の都市及び特別区の中央館相当、政令市の地域館相当 計34施設

#### ○施設環境に関する主な来館者意見（来館者アンケートより（R6年6月））

- ・狭隘：閲覧席が少ない／勉強スペース、キッズコーナーが少ない／学習席が少ない 等
- ・閲覧環境：座席環境の充実／椅子だけでなく机の充実／カフェの併設／電子書籍の充実 等
- ・機能：トイレや授乳室の整備／障がいのある人が読みやすい場所の整備／セルフ貸出の導入 等



#### (3) 集い・交流、多様な体験等、図書サービス向上を担う新機能

→現在の市立図書館に、図書館ビジョンが掲げる多様な新機能の全てを導入することは困難

- ・図書館ビジョンでは、図書サービス向上に向け、つどい・交流、子どもの学び・遊び、多様な体験、新たな価値の創造・発信等、新たな機能の導入・拡充を目指している。
- ・近年整備された他都市の図書館では、デジタル機器なども活用しながら、ゆとりのある空間にこれら複数の機能を備えているケースが多く、導入するには一定の規模の面積が必要。
- ・本市の図書館はすでに面積の余裕が少なく、現状では新たな機能の導入・拡充の余地は乏しい。

#### ○新たな機能（例）

##### つどい・交流

豊橋まちなか図書館  
ウェルカムゾーン・アクティブゾーン（約1,200㎡）



##### 子どもの学び・遊び

大和市立図書館（文化創造拠点 SiRiUS）  
屋内子供広場（400㎡）



##### 多様な体験

石川県立図書館  
空間アート体験“ブックリウム”（約70㎡）



##### 新たな価値の創造・発信

県立長野図書館  
信州・学び・創造ラボ（約800㎡）

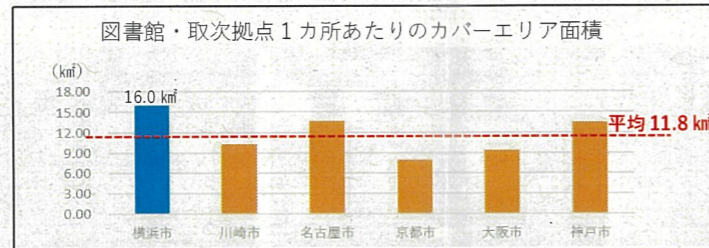


(4) 図書サービスへのアクセシビリティ

ア 図書館・取次拠点の密度

→ 図書館・取次拠点の設置密度が低く、図書サービスを身近に感じにくい。

- ・本市の図書館・取次拠点（「市立図書館」及び「図書取次所」）は、他都市に比べ、1つの施設がカバーするエリアが広い。



(各都市の人口集中地区(DID<sup>※</sup>)面積を図書サービスの拠点数で除して算出)  
 (市域全体の傾向を比較するため、青葉区のみで実施している図書取次サービス実施場所を除く)  
 ※ 都市の市街地の規模を示す指標。人口密度が4,000人/km<sup>2</sup>以上の区域(国勢調査の基本単位区)が隣接し、人口が5,000人以上となる区域。

イ 機能に合わせたアクセシビリティの確保

- 本の貸出し機能は、より身近な場所での提供が必要
- 地域館は「本の貸出し」に加え、館内での読書、学習等の機能の充実とアクセシビリティの向上が必要
- 中央図書館のように、「図書館内での活動」に向けた機能は、広域からアクセスしやすい場所での提供が必要

- ・地域館は、現状、自転車・徒歩圏にお住まいの市民から「本・雑誌を借りる」ために利用されているケースが多く、図書サービス拠点から離れた地域にお住まいの市民の「本・雑誌を借りる」ニーズに十分応えられているとは言えない。
- ・地域館は、閲覧席や学習室が十分に備えられていないため、「図書館内での活動」等のニーズに十分応えられているとは言えない。
- ・中央図書館は、現状、西区及び近隣区の市民に多く利用されており、遠方の市民のニーズを十分に満たすことができていない。

○地域館への来館目的 (複数回答可)

本・雑誌を借りる	図書館内での活動							その他
	本を図書館内で読む	雑誌・新聞を読む	勉強や仕事	調べもの	司書に相談する	イベントに参加する	グループでの図書の閲覧・学習	
513	106	41	89	35	10	4	3	120
74.1%	15.3%	5.9%	12.9%	5.1%	1.4%	0.6%	0.4%	17.3%

- ・来館目的は、主に「本・雑誌を借りる」であり、「図書館内での活動」目的は少ない。
- ・来館手段は、半数以上が「自転車・徒歩」であり「公共交通」利用は少ない。

○中央図書館への来館目的 (複数回答可)

本・雑誌を借りる	図書館内での活動							その他
	本を図書館内で読む	雑誌・新聞を読む	勉強や仕事	調べもの	司書に相談する	イベントに参加する	グループでの図書の閲覧・学習	
449	334	186	234	206	131	112	116	42
74.7%	55.6%	30.9%	38.9%	34.3%	21.8%	18.6%	19.3%	7.0%

○地域館への来館手段

電車・バスなどの公共交通	車・バイク	自転車・徒歩	家族等による送迎
191	100	398	3
27.6%	14.5%	57.5%	0.4%

○中央図書館への来館手段

電車・バスなどの公共交通	車・バイク	自転車・徒歩	家族等による送迎
327	35	235	2
54.4%	5.8%	39.1%	0.3%

○来館目的に「図書館内での活動」を含む中央図書館来館者の居住地

計	鶴見	神奈川	西	中	南	港南	保土ヶ谷	旭	磯子	金沢	港北	緑	青葉	都筑	戸塚	栄	泉	瀬谷	市外
447	15	34	108	65	63	15	19	11	23	13	15	6	6	3	16	3	3	4	23
	3.4%	7.6%	24.3%	14.6%	14.2%	3.4%	4.3%	2.5%	5.2%	2.9%	3.4%	1.3%	1.3%	0.7%	3.6%	0.7%	0.7%	0.9%	5.2%

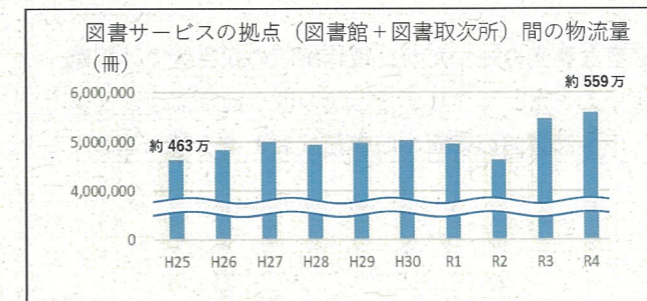
- ・来館目的は、「本・雑誌を借りる」に加え「図書館内での活動」も多い。
- ・来館手段は、「公共交通」が多い。
- ・利用者の居住地は、西区及び近隣区が多く、遠方の利用者は少ない。

(5) 物流拠点機能の整備

→ 今後見込まれる更なる物流量の増加に対応するため、物流網の再整備が必要

- ・近年、図書サービスの拠点(図書館+取次所)間の図書の輸送量は、コロナ禍を除きほぼ拡大傾向で、H25年から約21%増加(同期間の蔵書伸び率:+0.6%)。
- ・一方、各館では配架・集配スペースが狭隘化しており、これ以上物流量を増やすことは困難。

○物流量の推移



3 再整備の方向性の検討の考え方

図書サービスの充実とアクセシビリティの向上に向け、2で示した様々な課題の解消を図る必要がありますが、現在の市立図書館は、建物構造や敷地面積の制約等から、個々の館の大幅な規模拡大は難しい状況です。

そこで、市立図書館全体の再整備の方向性について、必要な調査を行いながら、本の貸出し等基本的なサービスの身近な場所での提供、交流・創造等の新しいサービスの拡充、中央図書館が担っている物流機能の補完等に効果的に対処できるよう、市域全体における交通アクセス等を踏まえ、1区1館を基本としつつ、中央図書館と身近な拠点である地域館が有する機能の分担の視点を入れて検討していきます。